

日本平に夢の眺望



県と静岡市が日本平山頂(静岡市清水区)に整備した「日本平夢テラス」が人気を集めている。3階建ての展望施設と展望回廊(1周約200m)は、巨大施設ではないが、富士山や駿河湾、静岡市街地など36

日本平は、ジャーナリス

0度の眺望をオシャレな施設で楽しめるのが人気の理由らしい。2020年東京五輪のメイン会場となる新国立競技場を設計した隈研吾氏による設計という話題性も貢献しているようだ。昨年11月の開館から4カ月間の入館者は38万5千人、すでに年間目標(30万人)を上回った。

ト徳富蘇峰(1863~1957年)が山頂からの風景を「天下の絶景」と紹介して全国の知名度になった。「日本観光地百選」の1位に2度輝いた。「今更人氣？」という気もするが、文化財保護法の名勝指定などで開発行為や建築物の高さなどが規制された。山頂部の「日本平公園」(88・5ha)は県有地、市有地、民有地が混在し、開発整備の妨げになってきた。

夢テラスは、中心部で県と市の活用計画が同調して誕生した。総事業費約17億円で、展望施設を県、展望回廊を静岡市がほぼ折半で負担した。開館記念式典で田辺信宏・静岡市長も「県と市の連携ですばらしい施設ができた」とあいさつした。

日本平夢テラスでは「共同開発」を売らせた県と静岡市だが、歴史文化施設計画(葵区)、桜ヶ丘病院移転計画(清水区)などをめぐっては不協和音が生じている。根底には川勝平太知事と田辺市長の政治手法の違いや確執なども絡み、事業の進捗には紆余曲折もありそうだ。

天気予報に反して、その日は富士山が見えなかった。展望回廊からのパノラマは堪能したが、やはり富士山を見たかった。

照る日もあれば、曇る日もある。人の心も、暮らしても、政治も、富士は黙って見つめている気がした。

(前静岡県監査委員・富永久雄)



多くの来場者でにぎわう日本平夢テラス=静岡市清水区、全日写真・青木康さん撮影